

保証書

保証期間内に取扱説明書の注意書きにしたがって正常な使用状態で使用していて故障した場合には、お買い上げの販売店に本書をご提示の上、修理をご依頼ください。

形名	SK11 エア仕上釘打機 F35L SA-F35L-X1BG		お買い上げ日	保証期間
			年 月 日	1年
お客様	住所	〒		
	ご芳名			
	電話	()		
販売店	住所			
	店名	☎ ()		

上記欄に記入のない場合は無効となりますから必ずご確認ください。

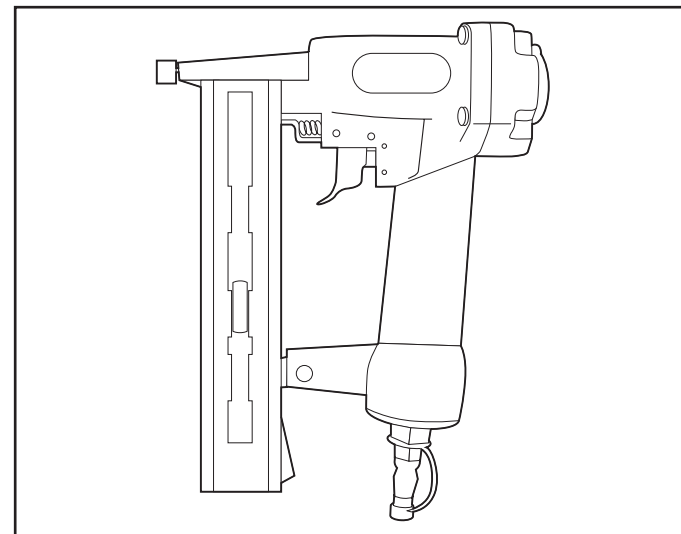
- 保証期間内でも次のような場合には有料修理となります。
(イ)使用上の誤り、または改造や不当な修理による故障または損傷。
(ロ)お買い上げ後の落下、輸送等による故障または損傷。
(ハ)火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障または損傷。
(ニ)本書の提示がない場合。
(ホ)本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合あるいは字句を書き換えられた場合。
- 本書に記入してあるお買い上げの販売店に修理をご依頼にできない場合には、当社までご相談ください。
- 本書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保存してください。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。



エア仕上釘打機 F35L

SA-F35L-X1BG

取扱説明書



このたびはエア仕上釘打機をお買い上げ賜り、誠にありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。そして、取扱説明書の内容を十分に理解し、正しく安全にご使用ください。

なお、この取扱説明書はいつでもご覧いただけるところに大切に保管し、必要な時に適切にご利用ください。

目次

警告表示・注意表示について	P1
ご使用上の注意事項	P1～4
1.各部の名称・本体仕様	P5
2.安全作業について	P5
3.安全装置について	P6
4.使用方法	P6～7
5.配管について	P8
6.エアホースの接続について	P8～9
7.仕上釘の打ち込み	P9
8.排気について	P10
9.プロテクトケースについて	P10
10.釘詰まりの直しかた	P10～11
11.オイルについて	P11
12.ベルトフックについて	P11～12

警告表示・注意表示について

- それぞれ次のような意味を表します。

 警告	：誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。
 注意	：誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。
注 意	：製品及び付属品の取り扱い等に関する重要なご注意。
本製品は品質および機能向上のため、予告なく仕様の変更を行う場合がございますので予めご了承ください。	

ご使用上の注意事項

- けがや物損などの事故を未然に防ぐために、次に述べる「ご使用上の注意事項」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「ご使用上の注意」すべてをよく読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
- 他の人に貸し出す場合は、いっしょにこの「取扱説明書」もお渡しください。

警告

■ 使用前

- ご使用前に「取扱説明書」を必ずよく読みください。
本機の取り扱い上の知識が不十分な場合、けがなどの事故の原因になります。
- ご使用の際は保護メガネ・耳栓を装着してください。また、必要に応じてヘルメットなどを装着するなど作業に適した安全な服装や保護具を着用してください。
釘打ち作業をする場合、打ち損じや飛散物が目に入ることを防いだり作業音から耳を守るなど安全のために必要です。
また、周りにいる人も必ず安全な服装や保護具を着用してください。
- 本機は指定された用途以外にご使用にならないでください。
用途以外でご使用になると、けがなどの事故や故障の原因になります。
- 揮発性可燃物（ガソリンやシンナーなど）の近くではご使用にならないでください。
打ち込み時に火花が出る場合があり、火災を起こす恐れがあります。
- 本機は圧縮空気専用です。動力源にエアコンプレッサー以外を絶対にご使用にならないでください。
圧縮空気以外のガス（酸素・プロパン・アセチレン等）を使用すると、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。
- 作業場所を常に整理し明るくしてください。
作業場所が暗かった状態や作業台が乱雑だと思われ事故の原因になります。また、作業場所を明るくしてください。
- 作業する箇所に、配線や配管などの埋設物がないことを十分に確認して作業を行ってください。
配線や配管に向けて使用した場合、思われ事故の原因になります。

- 子供や作業員以外の人を近付けないでください。
子供や作業員以外が本機やホース・エアコンプレッサーに触れないようにしてください。また、子供や作業員以外が近くにいないことを確認してから作業をしてください。
- 本機の分解や改造をしないでください。
本機に刻印や溶接をしたり、分解改造をしないでください。本機の故障や思わぬ事故の原因になります。
- 本機を落下させたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
本機に亀裂や破損が起こり、故障の原因になります。
- 本機を使用する前に必ず点検してください。
エアホースを接続する前に下記の点検を必ず行ってください。
・ねじの締付けが緩んでいたり抜けていないか。
・各部部品が外れていたり、傷んでいないか。
・その他に異常がないか。
それらがある場合は使用しないでください。そのままご使用になられると事故や破損の原因となります。
- 本機でご使用になるエアコンプレッサーやエアホース、エア機器等の取扱説明書をよく読み、正しくご使用ください。
正しく理解しご使用いただかないと思わぬ事故やけが、または本機の故障に原因になります。
- 本機が水で濡れていたり、油が付着している状態でご使用にならないでください。
特にグリップには注意し、滑りによる思わぬ事故にならない様にしてください。
- エアホースを接続するときは以下のことを厳守してください。
エアホースを接続するときは誤って作動させないように以下のことを必ずお守りください。
・トリガに指をかけない。
・安全装置や射出口に触れない。
・射出口を人や動物に向けない。
- エアホースを接続時に必ず確認する。
使用前にはステープルを装填しないでエアホースを本機に接続し下記の確認を必ず行ってください。
・エアホースを接続しただけで作動音がしないか。
・エア漏れや異常音がしないか。
エアホースを接続しただけで作動したり、エア漏れや異常音がする場合は故障しています。そのままお使いになると思わぬ事故の原因となりますので、絶対にご使用にならないでください。
- 指定されたステープルまたは釘をご使用ください。
指定されたステープルまたは釘と異なるものを使用すると本機の故障や事故の原因となりますので、必ず指定のステープルや釘をご使用ください。
- 本機に安全装置が装備されている場合は安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しないでください。
使用前には必ず安全装置が完全に作動するか確認してください。ステープルや釘を装填しないでエアホースを接続し、トリガを引いて確認してください。
※以下の場合には安全装置が故障しています。本機の使用をやめ、修理に出してください。
・トリガを引いただけで、作動音がする。
・射出口を対象物にあてただけで作動音がする。

■ 使用中

- 使用空気圧を必ず守ってください。
本機の使用空気圧を超えた圧力で使用すると本機の寿命を早めたり、故障の原因になります。また、それによる破損や損傷でけがなどの思わぬ事故の原因となります。使用空気圧の設定は本機の使用空気圧範囲内で、対象物や打ち込み深さなどを考慮して設定してください。
- 射出口を人体や動物に向けないでください。
誤って発射した場合に思わぬけがや事故の原因になります。また、射出口付近に手足等を近付けての作業は危険です。すのでおやめください。
- 発射するとき以外はトリガに指をかけないでください。
誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。安全装置が装備されている機種でも十分に注意してください。
- トリガに指をかけたまま人に手渡したり置いたりしないでください。
誤って発射された場合は思わぬ事故やけがの原因になります。
- ステープルや釘を打ち込む時以外は、トリガに指をかけないでください。
ステープルや釘の装填や点検・調整などをするときはトリガに指をかけないでください。誤射による思わぬけがや事故の原因となります。
- トリガに指をかけた状態でエアホースの脱着をしないでください。
脱着時の反動による誤射で思わぬけがや事故の原因となります。また、トリガを引いたままエアホースを分離しないでください。接続時にステープルや釘が発射される場合があります。思わぬ事故やけがの原因になります。
- ステープルや釘を打つ時は射出口を確実に対象物に当ててください。
射出口を確実に対象物に当てていないと反動で手元が狂うことで思わぬ事故やけがの原因になります。また、打ち込まれたステープルや釘の上から射出しないでください。ステープルや釘の反発や本機の反動で思わぬ事故やけがの原因になります。
- 作業中は本機に顔などを近付けないでください。
本機の反動や飛散物でけがの原因になります。
- 使用中に本機に異常を感じたら作業を中止し、絶対に使用しないでください。
使用中にエア漏れや異常な音、作動不具合、誤作動など異常がみられたままご使用になられると思わぬ事故やけがの原因になります。
- 本機を誤って落したり、ぶつけたりしたときは、本機に破損や亀裂、変形などの異常がないことを確認してからご使用ください。
異常がみられたままご使用になられると思わぬ事故やけがの原因になります。
- 壁や対象物の両側から向かい合わせて作業をしないでください。
向かい合って作業をすると、打ち損じや貫通したステープルや釘が作業員にあたり、思わぬ事故やけがの原因になります。

- 無理な姿勢で作業をしないでください。
常に足元を安定させて、しっかりと踏ん張って作業してください。バランスが悪いと転倒などと思わぬ事故やけがの原因になります。
- 高所で作業する場合は以下のことに注意してください。
 - ・エアホースは作業場所に固定するなど十分に確保してください。不意に引っ張られて転倒や落下の恐れがございます。
 - ・十分に足場を確保し、安定した姿勢で作業してください。
 - ・屋根などの斜面で作業する場合は下から上に向かって前進で作業をしてください。
- 水平面を打つ場合は前進姿勢で作業を行ってください。
安全に作業ができ、正確で早い作業ができます。後退しながらの作業は足を取られるなど危険です。
- 垂直面を打つ場合は上から下に打ち込んでください。
本機を手に届く最も高いところまで差し上げ、上から下へ打ち込み作業をしてください。疲労が少なく、安全に作業がしやすいです。
- エアコンプレッサー・ホース・本機を直射日光のあたる場所で長時間使用したり、放置しないでください。
温度上昇による本体の不具合や空気圧の上昇で故障や思わぬ事故やけがの原因になります。

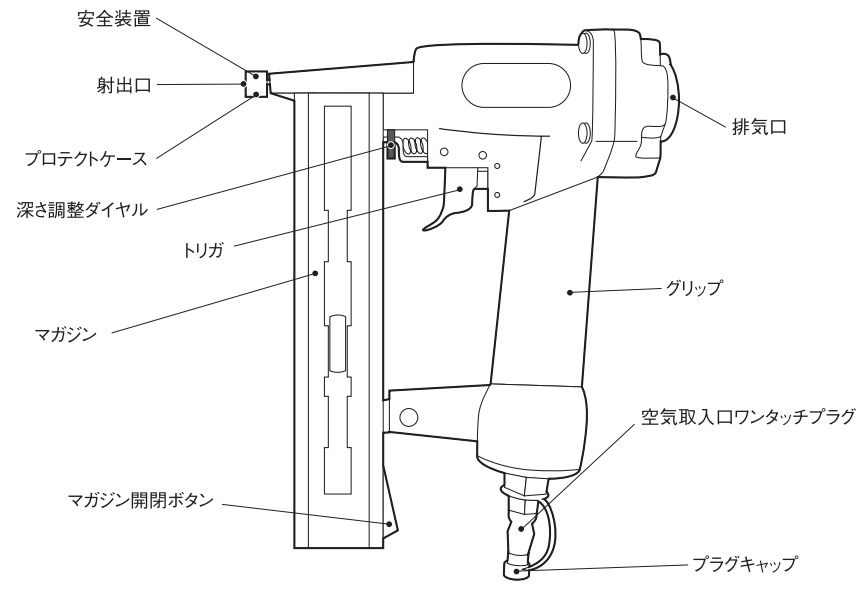
■ 使用後

- トリガから指を離し、本機とホースの接続を分離してください。
誤って発射された場合は思わぬ事故やけがの原因になります。
- マガジン内に残ったステーブルや釘を取出して保管してください。
誤って発射された場合は思わぬ事故やけがの原因になります。
- 本体内部に貯まったドレン(水分)を空気取入口から抜いてください。
空気取入口を下に向けて数回振ってください。
- 空気取入口から付属のオイルを数滴入れ、再度ホースを接続して1～2回空打ちをしてください。
内部の水分や汚れを付きにくくし、寿命を延ばします。
- 本機の汚れをダスターで吹き飛ばしたり、乾いた布で拭いてください。
本機の寿命を長く保ちます。

■ その他注意事項

- 付属のオイル以外をご使用になる場合は市販のエアツールオイルまたはエアネイラー・エアタッカー用オイルをご使用ください。(タービン油 ISO VG32)
- 使用後の保管は空気取入口のプラグにキャップをし、ブローケースに入れて保管してください。
直射日光や高温多湿を避け、清潔な場所で保管してください。
- 配管中に市販のフィルターなどのエア機器を使用する場合はエア機器の取扱説明書をよく読み正しくご使用ください。
使用用途に合わせ正しくご使用いただかないと寿命を短くしたり、故障の原因になります。

1. 各部の名称



●本体仕様

商品名	SK11 エア仕上釘打機 F35L
品番	SA-F35L-X1BG
本体サイズ	L 255mm × W 59mm × H 207mm
質量	0.87kg
釘装填本数	100本
使用空気圧範囲	0.5～0.8MPa
付属品	サンプルネイル・取扱説明書・安全ガラス・ネイラーオイル・ケース
使用オイル	タービンオイル ISO VG32

釘種類	仕上釘(フィニッシュ)
釘寸法	
釘足長(a)	12～35mm

2.安全作業について

本機は釘を打ち込むためのエア工具です。木材や石膏ボード等の材料などにご使用ください。それ以外の用途でご使用になれますと重大な事故につながる恐れがあります。

3. 安全装置について

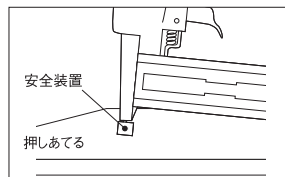
本機は仕上釘を打ち込む作業で安全を確保するために安全装置が付いています。

⚠ 警告

安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しないで下さい。

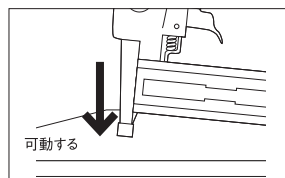
この安全装置は対象物に射出口をあて、安全装置が引っ込んだ状態でトリガを引くことで仕上釘が発射する構造になっています。

- ①エアホースが分離した状態で木材に射出口を押しあててください。正常に安全装置が可動するか確認してください。



仕上釘を装填せずに

- ②エアホースを接続しただけで作動音がしないか確認する。
③トリガを引いただけで作動音がしないか確認する。
④射出口を木材に当てただけで作動音がしないか確認する。
②～④で1つでも作動音があった場合は絶対に使用しないでください。



4. 使用方法

⚠ 警告

本機の使用方法是エアホースを接続せずに確認してからご使用ください。使い方を誤ると思わぬ事故やけがの原因になります。

●仕上釘の装填

- ①エアホースを接続せずに本機の射出口を下に向け開閉ボタンを押してマガジンを引いて開けてください。(図-1)

⚠ 警告

仕上釘の装填は必ずエアホースを分離した状態で行ってください。誤射による事故やけがの原因になります。

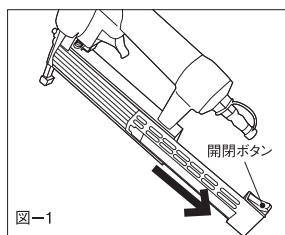


図-1

- ②仕上釘の頭をグリップ側にし、図-2のマガジンのa側の角に仕上釘の先端を合わせて置きます。

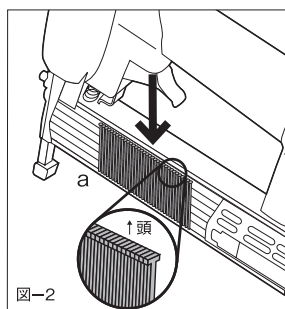
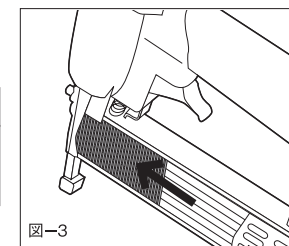


図-2

- ③図-3の様に射出口側に押してください。射出側に隙間なく入れてください。

⚠ 注意

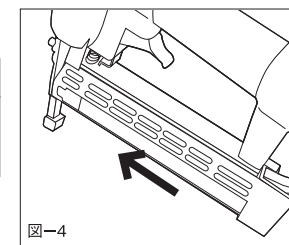
仕上釘は最大100本までを装填できます。それ以上は装填しないでください。



- ④マガジンのエンドを指でカチッと音がするまで押して締めてください。(図-4)

⚠ 注意

マガジンを締めるときは無理やり力を入れて締めないでください。故障の原因になります。



●打ち方

⚠ 警告

仕上釘を打ち込む時以外は、トリガに指をかけないでください。誤射による思わぬけがや事故の原因となります。

⚠ 警告

射出口を人体や動物に向けないでください。誤って発射した場合に思わぬけがや事故の原因になります。また、射出口付近に手足等を近付けての作業は危険ですのでおやめください。

- ⑤エアホースを空気取入口ワンタッチプラグに接続します。

- ⑥仕上釘を打ち込む対象物にしっかりと射出口を押しあててトリガを引いてください。(図-5)

※本機には空打ち防止機能は付いておりません。確実に仕上釘が打ち込まれているか目視でご確認ください。

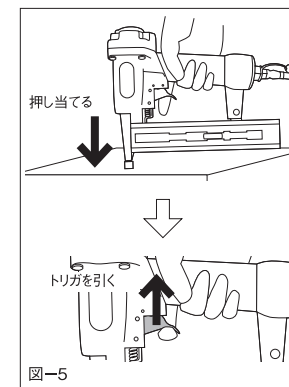
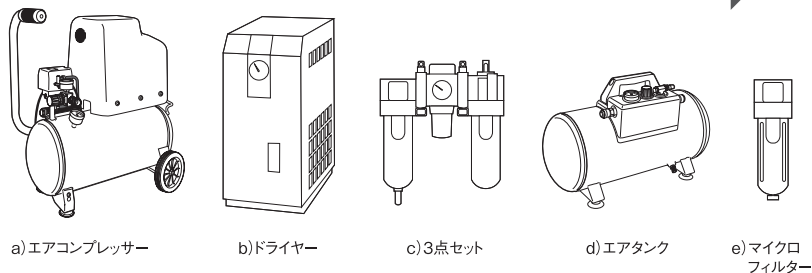


図-5

5. 配管について

ソール
本機

空気の流れ



- a) エアコンプレッサー：圧縮空気の供給元
b) ドライヤー：圧縮空気中の水分を効果的に除去します。
c) 3点セット：
・フィルター・・・圧縮空気中のほこりやごみ、水分の除去。
エアコンプレッサーの空気は汚れや水などを多く含んでいます。ソールや配管の劣化を早めますのでご使用をおすすめします。
・レギュレーター（減圧器）・・・空気圧の調整をします。0～供給された空気圧まで設定できます。
・ルブリケーター（オイル）・・・圧縮空気にエアソールオイルなどを添加します。
d) エアタンク：出来るだけ多くの圧縮空気を貯めておくことで、連続でソールが使いやすくなります。
※エアコンプレッサーの能力（吐出量）が小さいと圧縮空気が貯まる（空気圧が上がる）のに時間がかかります。
e) マイクロフィルター：空気中の微細なほこりやごみ、水分、油分を除去します。
f) エアホース：推奨は内径φ6.5mm以上で30mまで
g) ワンタッチソケット：エアコンプレッサーと本機の間には最大で2～3個までにしてください。
h) その他機器：機器メーカーの注意書をよく読み正しく安全にご使用ください。

※これらはすべて別売です。必要に応じて準備してください。

⚠ 注意

フィルター・ドライヤー・レギュレーター・ルブリケーターなど空圧機器をご使用になる場合はご使用になる機器の取扱説明書や注意書をよく読みご使用ください。

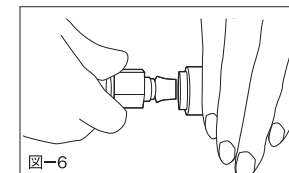
6. エアホースの接続について

⚠ 警告

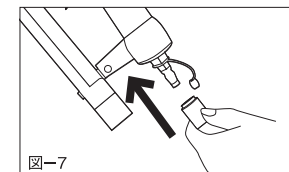
エアホースを接続するときは誤って作動させないように以下のことを必ずお守りください。
・トリガに指をかけない。
・安全装置や射出口に触れない。
・射出口を人や動物に向けない。

●ワンタッチソケットとプラグの接続

- ①エアホースの接続は、エアコンプレッサーとホースのプラグを接続します。接続はエアコンプレッサーとホースをしっかり持ち、まっすぐに押し込んでください。カチッと音がしたら接続完了です。（図-6）



- ②次にホースのソケットと本機のプラグを接続します。接続時はトリガに指をかけずにしっかり持ち、ホース側のソケットをまっすぐに押しあててください。カチッと音がしたら接続完了です。（図-7）



7. 仕上釘の打ち込み

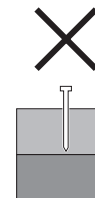
⚠ 警告

本機は使用圧力範囲内0.5～0.8MPaでご使用ください。また、最高使用圧力0.8MPaを超えた圧力で絶対に使用しないでください。

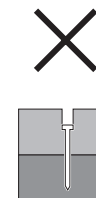
- ①仕上釘の打ち込み深さは打ち込みをする材料の固さや仕上釘の種類・サイズ、ホースの長さなどで大きく変化します。深さの調整は本機の深さ調整と使用空気圧で調整してください。



適正です
そのままご使用ください。



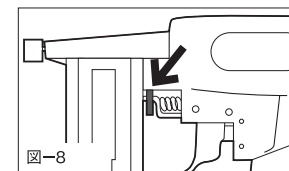
浮き過ぎ
本機深さ調整ダイヤルまたは
使用空気圧を上げてください。



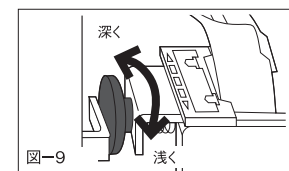
沈み過ぎ
本機深さ調整ダイヤルまたは
使用空気圧を下げてください。

●本機の深さ調整について

- ①図-8の矢印の深さ調整ダイヤルで深さを調整する。



- ②図-9で手前に回せば浅く、奥に回せば深く、打ち込み深さを変えることができます。

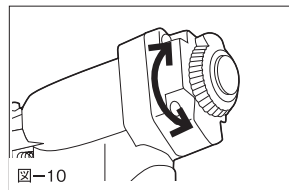


8. 排気について

⚠ 警告

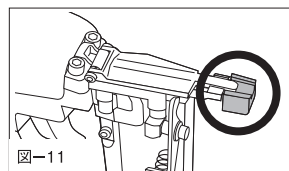
本機の排気は汚れた水分・油分やほこりを含んでいます。直接、人や動物に向けてご使用にならないでください。

- ①排気口は360度回転します。邪魔にならない方向に向けてください。
(図-10)

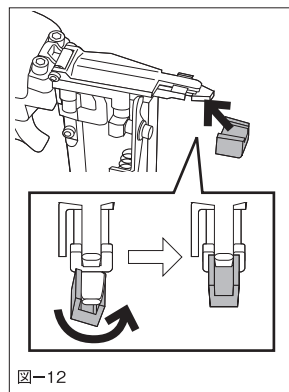


9. プロテクトケースについて

- ①本機には射出口に樹脂製のカバーが付いています。(図-11)
対象物を傷が付きにくくするものです。お買い上げ時は取り付けられている状態です。そのまま、ご使用ください。



- ②摩耗などで取り換えるときや不意に脱落したときは図-12の様に付けてください。



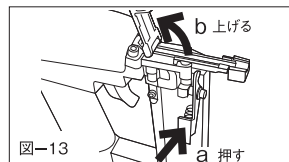
10. 釘詰まりの直し方

⚠ 注意

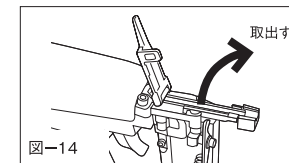
使用中に釘が射出口に詰まったら、すぐに詰まった釘を取り除いてください。無理に打ち続けると故障の原因になります。

釘が詰まったら

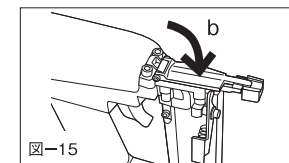
- ①エアホースを分離してください。
②マガジンに装填されている釘をすべて取り除いてください。
③マガジンを開けたまま、ドライバーガイドレバーaを押してドライバーガイドカバーbを上げて開けてください。(図-13)



- ④詰まっている釘を手またはラジオペンチ等で取り除いてください。(図-14)



- ⑤ドライバーガイドカバーbを元の位置に戻してください。(図-15)



- ⑥「4. 使用方法」の手順で使用してください。

11. オイルについて

本機は使用前と使用后または打ち込み1000本に一回程度、注油をしてください。注油をおこたると故障や異常摩耗の原因になります。

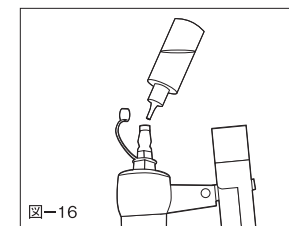
●注油方法

本機とエアホースを分離してください。

釘がマガジンに入っていないことを確認してください。

空気取入口のワンタッチプラグを上に向けそこから1～2滴注入してください。
(図-16)

注入後、釘が入っていない状態でエアホースを接続し2～3回空打ちしてください。



注意

注油の量が多かったり頻繁に注油しすぎると空気排気口からオイルが噴き出す場合がございます。

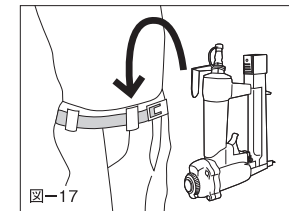
注意

排気口からは本機のシリンダー内の汚れや水分・油分が出ます。噴き出す場合はウエス等で押さえて数回空打ちしてください。

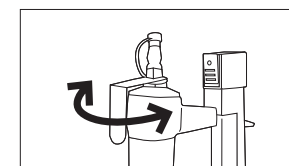
12. ベルトフックについて

ベルトフックはご着用の作業ベルトやツールフックに引っかけてご使用いただけます。(図-17)

ベルトフックをご使用になられる場合は必ず本機とエアホースを分離してください。



また、360度回転でき、右利きでも左利きでもご使用いただけます。



⚠ 警告

高所作業ではご使用にならないでください。万が一、落下した場合、思わぬ事故の原因になります。

⚠ 警告

不意にフックがベルトやツールフックから外れる場合があります。移動等の際は出来るだけ手で持ってください。万が一、落下した場合、思わぬ事故の原因になります。

⚠ 警告

ベルトフックをご使用になるときは本機とエアホースは絶対に分離してください。分離せずにご使用になると誤射による思わぬ事故の原因になります。